

平成26年度第2回氷見市行政改革推進市民懇話会会議録

- 1 開催期日 平成26年8月11日（月）
 - 2 開催場所 市役所A棟2階全員協議会室
 - 3 会議時間 午後4時～午後5時20分
 - 4 出席委員 伊藤宣良、大引巻代、仕切義宣、永田徳一（嶋尾正人 代理）、
京田賢（姫野貞夫 代理）、屋敷夕貴、鶴瀬初弘、山田勝之、
小堀正夫、田中英雄、嵩尾憲昭、釣賀節子、山本弘子
計13名
 - 5 欠席委員 能登谷久公、森本太郎、佐々木一郎、中隆明、池永フミ子
 - 6 市出席者 本川祐治郎（市長）、棚瀬佳明（副市長）、前辻秋男（教育長）、
高橋正明（企画振興部長）、定塚信敏（総務部長）、山口優（市
民部長）、福嶋雅範（建設農林水産部長）、濱井博文（防災・危
機管理監）、高田長治郎（教育次長）、加野陽子（教育次長）、
堂尻繁（消防長）、藤澤一興（総合政策課長）、草山利彦（総務
課長）、桶元勝範（財務課長）ほか
 - 7 傍聴者 市議会議員2名
 - 8 案 件 (1) 配布資料の説明
(2) 質疑応答、意見交換
- <協議資料>
- 資料1 氷見市集中改革プランⅡの総括について
 - 資料2 計画期間中の財政収支見通しについて
 - 資料3 新たな行政改革プランの策定について
 - 資料4 人口の推移
 - 資料5 主な財政指標等の状況について
 - 資料6 職員数の推移
 - 資料7 公共施設の管理運営状況について
- 9 発言内容 別紙のとおり

発 言 内 容

会長

ただ今から、第2回の会議を開催いたします。委員各位には、何かとお忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。

本日は、前回示されました新行革プランの策定方針に基づいて、新プランに盛り込む内容について、議論を深めていきたいと思っておりますので、前回同様、活発な討議をよろしくお願いいたします。

それでは、最初に、市長からご挨拶をいただきます。

本川市長

本日は、第2回行政改革推進市民懇話会の開催にあたり、委員の皆様方におかれましては、お盆直前という大変お忙しい中、会議にご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

本日の懇話会は、第2回の開催となりますが、新たな行改プランの策定に向けて、提言いただく内容について、大所高所から活発なご議論をお願いしたいと存じます。そのために必要となります、今年度までの行革プランである、集中改革プランⅡの総括や、新たなプランの計画期間中の財政収支見通し、そして前回ご説明をいたしました新たなプランの策定方針に基づいて、市民の皆様や職員から集まりました意見をとりまとめましたので、ご説明をさせていただきます。

なお、本市では、人口減少対策や新幹線開業に伴う大きな都市構造の変化など、観光面・定住面でプラスになるのかマイナスになるのか、ここをしっかりと見極める必要がありますが、未来からの宿題はどんどん押し寄せてきております。解決しなければならない課題が常に山積しております。

その中において、未来の変化に耐えられるような仕組みづくりについての検討も必要と考えておりますので、このようなことを踏まえまして、皆様方には様々な視点から、忌憚のないご意見をお聞かせいただきまして、ご提言をいただければと存じております。

前回もお話したと思いますが、水道料金の値下げの議論の中で、改めて統計をしっかりと見ますと、10年を待たずに、氷見市の水道の会計が赤字となっていくます。そんな中、旧市民病院の跡地の利活用や、市民会館のこれからのあり方の議論も待ち受けておりますので、やはり、正確な情報を皆さんにお出しし、ご判断いただくということが大事なのではないかと思います。

一方、質の議論というのも大切です。

今、夏休みで、今日もたくさんの子供たちが遊びに来てくれました。

厳しい人口減少の中ではありますが、今の子供たち・次世代のために、質的な充実を図り、市民幸福度をどう高めるかということもご指南いただければと思っております。何卒よろしくお願いいたします。

本日はこれで中座をさせていただきますが、皆様の活発なご議論に期待いたします。よろしくお願いいたします。

会長

ありがとうございました。今ほど、市長の話にもありましたが、市長は所用のためこれにて退席されます。

(市長退席)

それでは協議に入りたいと思いますが、はじめに今日の出席者に関してご報告を申し上げます。

まず、嶋尾氷見市社会福祉協議会会長の代理として永田さん、姫野氷見商工会議所会頭の代理として京田さんに出席をいただいております。なお、佐々木委員、中委員、森本委員、池永委員は本日欠席ということでご連絡をいただいております。

それでは協議に入ります。

本日の協議案件は、集中改革プランⅡの総括と、新たなプランの計画期間中の財政収支の見通し、そして、新たな行政改革プランの内容についてであります。一括して事務局より説明をお願いいたします。

総務課長

(資料1及び資料3の説明)

財務課長

(資料2の説明)

会長

ありがとうございました。それでは、たくさんの説明を受けたわけですが、先ほども挨拶で申し上げましたとおり、特に、資料3「新たな行政改革プランの策定について」の「論点の整理」や「新プランにおける目標管理すべき項目の整理」などを中心に、本日は議論をしていきたいと思っております。どなたからでもご意見を頂戴したいと思います。

なかなか意見も出づらと思いますので、〇〇さんいかがですか。

委員

今ほど、(資料3の)3ページの「計画期間中の財政収支見通し」ということで、財務課長からご説明がありました。計画期間中では、4億9,300万円の赤字であります。この額を、今後の実施計画で解消していくということになろうかと思っております。今まで、数十億単位であったものが、5億程度で収まったということをお大変喜んでおまして、これも、平成15年から一生懸命行革を行ってきた表れであろうと思っております。

一方、視点を変えて、最近のニュースからの話題ですが、「日本創成会議」という機関がレポートを提出いたしました。

地域の活性化、人口の維持というのは、大変大きな問題であったのですが、今まで、人口の維持については、出生率ばかりが議論されてきました

が、新たな視点で、20～39歳の女性の数が人口維持に大きく影響すると発表しました。

その趣旨から言えば、氷見市の人口が51,000人で、対象者が4,800人ですが、何もしなければ、2040年には、氷見市は人口30,000人あまりで、20～39歳の女性は2,000人程度になっており、削減率が約57%ということで、大変ショッキングな数字であります。

人口減は避けられないとしても、人口減を少しでもくい止めるという意味では、市の政策力、企画力など、そういったものが大きく問われるわけです。

今までどおりのことをしていると、そのとおりの人口減になってしまうということでもあります。人口は毎年1.3%減り、生産年齢人口は毎年1.9%減っていく（国立社会保障・人口問題研究所の推計に基づく数値）ということになれば、当然、市税に影響がありますし、地方交付税が減少していくのは当然のことです。

これらの課題を解消するには、企画力や職員の能力向上が求められるわけでありまして、そういう部門の職員数は増やして、一方で、まだ直営施設もたくさんありますし、本庁内でもいわゆるルーチンワークと言われるものについては、専門性を持った民間企業に委託した上で職員数を削減し、全体的には経費を削減し、政策力を上げていくことが非常に大事だと思っております。

資料3の「新たな行政改革プランの策定について」の「論点の整理」においては、仕事がどんどん増えてくることに対する対応案が書かれていますが、企画力を要する部門については、当然職員数を増やさなければならないと思いますが、直営部門など、委託が可能なものはどんどん民間委託して、経費を削減すればよいと思いますので、「論点の整理」については、これでよろしいのではないかと思います。

一方、「目標管理すべき項目の整理」の財政指標等についても、しっかり抑えていただいて、健全財政を保ち、かつ活力のある市となっていきたいと思っております。

総務部長

資料1の5ページ目をご覧いただきたいのですが、「店員管理の適正化」ということで、職員数の推移を載せてあります。現在は全体で421名であり、最終年には、目標の415名を達成できる見込みであるというものであります。全体の415名というのは、類似団体と比較すると、やや多いかもしれませんが、下の表にもあるように、一般行政職だけを比べますと、類似団体を下回っております。今ほどお話がありました、業務の委託などを通して、さらなる職員数の削減が可能ではないかと思っております。削減が可能となれば、全体でも類似団体を下回ることができると思

ますし、一般行政職については、現状維持なり、少しくらい増やしてもいいという考え方もあるのではないかと思います。

今までは、職員数を、全体的に減らすということを考えておりましたが、部門によっては、増やすところ、現状維持するところ、減らすところ、それぞれあってもいいのではということを考えております。

委員

資料6には職員数の推移がグラフになっておりますが、消防の職員については、平成3年から現在まで、ほとんど増減がありません。このグラフを見ると、職員数は減っていて当たり前という印象を受けるのですが、日常、救急車のサイレンを聞く頻度を考えますと、これだけの期間、人数が変わらないで問題ないのかと感じます。実態として、人数が足りているのかということを知りたいという思いがあります。私は、恐らく足りないのだろうと思っています。

私も消防団員だった頃は、市民の生命と財産を預かっているということ誇りにして活動していました。何かあったときに、人数が足りなくて救急車を動かさない、ポンプ車を動かさないということがあれば、市民が悲惨であります。

部長の皆さん方には、もっとゼネラルなマネジメントの感覚を持っていただいて、縦割り型でなく、横串を通したかたちで見ていただきたいと思うわけです。

一番聞きたいのは、消防職員が足りているのかということでありまして。消防の方から答えていただけますでしょうか。

消防長

グラフでは平成3年からということになってはいますが、昭和56年から52名前後で推移しています。平成3年の救急件数は750件程度でしたが、現在は約2倍の1,500件前後であります。このほかの一般業務としても、事業所、旅館、ホテルなどの防火対象物の件数も、以前は700件程度でしたが、現在は1,500件程度あり、検査に入っております。現在、人数的には、大変少なく、苦しい状態にあると思っております。

委員

消防の会合などに出ることがあるのですが、最近よく聞くことは、消防職員ではなく、消防団員が減ってきているということでありまして。これは市全体の問題であり、ある課の問題とは言えないものであります。

今回、このグラフを見て、職員数が変わらなくて大丈夫なのかという思いがあり、質問させていただきました。

会長

他の方、ありませんか。

委員

職員数を減らすにせよ、市民の要望に答えるにせよ、最終的には収支均衡がベースとなります。結果として赤字になるとか、2期連続して赤字になるとかでは組織が持たないわけであります。市の財政も厳しいですから、目標管理すべき財政指標などは掲げるべきであると思います。ある程度、規制しないと、組織は肥大化していく可能性がありますので、今回、こういう指標整理がされたということは、よかったと思っております。

もう1点は、収入を増やすという視点を持つべきであると考えます。(プランⅡでは)市税の収納率などを目標に掲げてきたわけですが、市の会計だけでなく、市全体へお金が落ちるという視点で考えた方が良いのではないかと考えております。

国の制度などを、積極的にPRして、国の政策とのマッチングなどを考えれば、地域に資金が回るといいますので、市の財政だけでなく、氷見市全体が潤うはずで、事業者の意欲を、国・県の事業にマッチングするように取り組んでいただきたいと思いますと考えております。

会長

〇〇さん、今の話に関連して、何かありませんか。

委員

目標管理すべき財政指標については、できるだけ分かりやすい「見える化」が浸透する形で、行政を運営していただければと思います。

その時々で発生する新しい仕事の方が、従来の仕事よりも大切だという認識を、私は持っております。その時々の仕事に、プロジェクトを組んで対応できる体制こそが、市民ニーズに対応できる行政であると思っております。民間では当たり前のことですが、大きなプロジェクトに瞬時に対応できるような仕組みを、行政にも取り入れることが、市民ニーズへの対応となるのではと思っております。

もう1点は、行政が橋渡し役を行い、市民が潤うような経済活動の起点を作っていただきたいと思いますというのはもちろんなのですが、行政自らが手数料を稼ぐということも検討いただけたらと思います。

例えば、かほく市がマンホールの蓋に広告を募ったということを知ることがあります。氷見市でも、春中ハンドのときには封筒に広告を掲載するなどしておりますが、行政の許される範囲内で、取り組むのがいいと思います。

あるいは、多くの方が市役所の見学に訪れておりますが、市外から来られる方々に対して、職員が丁寧に説明を行っております。その説明する職員は、市民の税金で賄っておりますので、市外から訪れた方々に、一定の資料代をお支払いいただくことがあってもいいのではと思います。

行政自らが収入の道を増やすことについて検討いただければ、収支の均衡が図れるのではないかと考えております。

会長 今ほどの、収入の面の問題などについて、事務局のほうから、考えなどありませんか。

総務部長 今ほどの、行政自らが収入を得るような取り組みについてですが、例えば、規模は小さいのですが、広報やホームページに広告を掲載しております。他市では、施設の命名権を導入しているところもありますので、新たな取り組みについても検討していきたいと思っております。

また、庁舎視察の資料代のお話ですが、5月の開庁以来、たくさんの方々が視察に来ておられます。資料代を払ってでも見に行きたいというレベルになれば、資料代の請求もできるのかもしれませんが、まだそこまで達していないのが現状であると思っておりますので、もう少し頑張っていきたいと思えます。

また、新たな仕事への対応の件ですが、やはりスクラップアンドビルドで、既存の仕事のある程度整理し、瞬時に対応できるような体制も必要であると思っております。

昨今のめまぐるしい時代の変化の中で、市民ニーズも刻々と変わってきます。我々が古い考えを持っていると、瞬時に対応できませんので、そういうことにも取り組んでいきたいと思っております。

会長 国・県とのマッチングに関しても回答いただけますか。

総務部長 国からは新たな施策がどんどん出てきますので、私たちはアンテナを高くして、国の新たな取り組みを瞬時につかむことが重要であります。特に、国はモデル事業と言いまして、初めて行う事業については、補助率が高くなる場合があります。例えば、電子黒板が比美乃江小学校に導入されましたが、文部科学省が100%補助するというので、県内の小学校では氷見市だけが対象となりました。

氷見市で実施しなければならぬ仕事について、国で新たな政策として取り組む際に、すぐに対応できるように、アンテナを高くして行きたいと思えます。また、行政では収集できない情報などもありますので、各種団体の方々には、新たな情報が入りましたら、教えていただけたらと思えます。

また、国・県だけでなく、民間や財団などにも補助制度が多くあります。そういうものも活用していきたいと思えます。

委員 国の財政的な基盤が大変厳しくなっていますが、リーマンショック以降、先進国では経済の対策が遅れています。いろいろな社会的な問題も発

生している中で、OECDでは、「公共部門は、推計などではなく、事実に基づいた行政を行わなければならない」と提言しています。具体的にはデータを取るということではありますが、例えば、対象の1%の方にアンケートを行っても、それは全体の数字ではないわけです。

市や県などの決算は自治体独自の会計で表されますが、これは企業会計とは全然違います。市にはいろいろ事業があり、企業会計になじむもの、なじまないものがあると思いますが、最終的にはすべてを企業会計で表現するというのを検討していただけたらと思います。

そのデータは、民間活力を利用するといった場合に、お示しする必要があります。それらは、事実に基づいたデータでなければならぬわけで、第三者がチェックした上で公開するという仕組みを取り入れていく必要があるのではないかと思います。

市役所の職員が活性化するのはもちろんなのですが、市民に活力があり、市民の能力を引き出すという形にすることが、氷見市が魅力的な市であり、住民も幸せを感じる市となる上での、基礎になるのではと思っておりますので、ぜひ検討していただけたらと思います。

会長

職員の能力を高めることも必要であるが、市民の能力を引き出さないといけないというご意見と、市から提示されるデータについては、より正確なデータが提示されれば、市民も意識を高めて、より活用できるのではというご意見でありましたが、このことについて事務局から何かありませんか。

企画振興部長

確たるデータや情報を収集して、それを市政に反映していくということは、とても重要な視点であると思います。

この4月からは、市でも、マーケティングという観点を取り入れるということで、職員がそういった能力を身につけることに取り組み、また、そういう部署を設けまして、いかにして市民ニーズを引き出せるかということについて、まだ習熟度は足りませんが、努力させていただいているところであります。その中で、市民の満足度調査などについても、実施していく必要があると考えております。

また、市の持っているデータを広く公開するという取り組みですが、例えば、福井県の坂井市では、「オープンデータ」ということで、市のデータを市民が活用し、新たなサービスを生み出すということを行っており、全国的にも広まりつつあります。

プライバシーなどには触れない形で、行政が持っているデータを活かすことにより、新たなビジネスやサービスが生まれることもありますので、市民の皆様にはデータを活用していただける機会を作れるよう努力してい

きたいと思います。

会長

〇〇さん、違った視点から、何かありませんか。

委員

氷見市の人口は減少しているわけですが、これは出生率だけの問題ではなく、若者の市外流出によることが大きな要因ではないかと思っております。高速道路なども整備されまして、デリバリーの面も充実してきておりますので、企業の誘致などについて、何か考えがあればお聞かせ願いたいと思います。

また、「人材育成」の部分で「スペシャリストの育成」とありますが、これは、現在おられる職員の OJT 教育などを行うのか、それとも、外部のプロの方を活用するというのか、これについてもお聞かせ願います。

企画振興部長

企業誘致についてですが、氷見市の人口減少問題については、やはり子育て世代の方々に、いかに住んでもらえるかということが一番重要であると思っておりますが、そのためには安定した収入が必要ということで、働く場が大きな鍵を握っていると思っております。

これまでも企業誘致を進めてきたわけですが、制度面では他に引けをとらないと思っておりますが、なかなか立地には結びついていないという状況であります。

ただ、交通網が整備されてきているということで、必ずしも東京にいなくても、地方にいてもできることが増えてくると思いますし、住む場所に対する価値観というものも、変化しつつあると思っております。

大震災を契機として、地方での生活というものが見直されつつありますので、市として良さをアピールするとともに、今住んでおられる方が、どうして氷見を離れていくのかということ、その原因を踏まえた上で、大変ショッキングな見通しも出ておりますので、人口減少対策ということで、企業誘致を進めていきたいと思っております。

総務部長

スペシャリストの育成についてですが、将来的には市の職員、また、市民の方々の中から育成できればいいと思います。しかし、短期的には、外部から来ていただくことも必要であろうということで、今年度については、民間の経験がある方3名に頑張ってもらっております。そういう方のノウハウを学び、知識を増やすとともに、専門分野を確立するということも必要だと思います。

私も、いろいろな部署を回ってきましたので、得意分野は何かと聞かれましても、なかなか答えられないのが現状であります。「自分は税務が得意分野だ」、「教育が得意分野だ」ということが言える職員を育成すべき

であると思っております。

今までは、3～4年サイクルで、いろいろな部署を転々とするということが多かったわけですが、場合によっては、一つの分野を長期間にわたり担当することがあってもいいのではないかと考えております。

会長

他に何かございませんでしょうか。

委員

企業誘致についてお話がありましたが、企業誘致だけが、氷見市が生き残る道ではないわけでありまして、地元の人、あるいは、東京などの人でも結構ですが、創業をどう支えるかがポイントになってくると思います。氷見に住んでいただく、氷見に地盤を置いて活動していただく、そういう人をいかに増やすかということが課題ではないかと思えます。

企業誘致で大きな会社ができたけれど、リーマンショックなどで撤退したという例はたくさんあります。企業は一旦立地しても、外部状況が変われば、背に腹は代えられないわけで、撤退もやむを得ないのかもしれない。

そうであれば、やはり、地元に住んでいただく、地元で地盤を置き活動していただく、そういう人をどうやって獲得するのかを、知恵を絞って考えていく必要があるのではと思っております。

あと、スペシャリストの件ですが、外部の方に来ていただくのもいいとは思いますが、地元の人をいかに発掘するか、地元の人にいかに活躍してもらおうかということを実際に考える必要があります。

経営コンサルタントなど、外部の人たちは、日本一であろうと、世界一であろうと、氷見のことはほとんど分かりません。成果が出なかったとしても、「こちらの指導内容はよかったのだが、やり方がマズかった」と言われるかもしれません。責任もとりません。

そうではなく、やはり地元の中にでも有能な方はいろいろおられます。そういう人たちは大変忙しいのですが、そういう人たちを見つけ、いかにして活躍する場を設けるかということに真剣に取り組んでいただきたいと思えます。

委員

企業誘致の話が続きますが、PRのやり方を変えれば、他市に負けない部分もあるのかなと思えます。

氷見市は、小矢部市や砺波市に比べれば、工業用地としては弱いかもしれませんが、「食都」ということを打ち出していることでもあります。6次産業を取り入れた誘致というのは非常に有効なのだろうと考えております。

昔は小さな地主が多かったため、なかなか土地がまとまらなかったわけ

ですが、今、土地に執着している人は少なくなっておりますので、比較的容易に土地を手に入れることはできます。

また、氷見はどこを掘っても温泉が出ますので、地熱を利用して農作物を早く育てることができる点や、「世界で最も美しい湾クラブ」の認定を目指しているわけですが、美しい情景を眺めながら農作物を出荷できる環境にある点、あるいは、災害・地震が非常に少ない点など、従来とは違う売り込み方があると思います。

私は、製造業に力点を置くのではなく、食文化やグルメのまちということ謳っている以上は、こういう取り組みを行うことの方が魅力的ではないかと思えます。

総務部長

スペシャリストに関するご意見、どうもありがとうございました。

市民の中にもスペシャリストはたくさんおられると思いますので、そういう方が活躍できる場を提供できればと思っております。また、そういう方がおられましたら、ぜひとも教えていただき、スペシャリストとして活躍できるよう努めていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。

企画振興部長

企業誘致に関するご意見につきましては、大切な視点であると思っておりますので、そういったことを十分考慮いたしまして、これからも進めていきたいと思えます。

委員

氷見市の地場産業が、ここ10～20年で細ってきているということを感じていますが、自慢できる地場産業はたくさんあると思っております。先ほどから示される数字のベースとなるのは、人口であり、事業所数であり、その所得・利益であると思っておりますので、自慢できる地場産業という切り口も取り入れていただくといいのではと思えます。

あと、行政改革ということですが、企業で言うリストラは、「10削って3を重点分野に投入し、差し引き7を削る」というのが一般的であります。

削りながらも、どこに資金を重点投入するのか、そういう観点でも取り組んでいただければいいのではと感じております。

企画振興部長

地域には、残していくべき産業があり、氷見では食文化が中心になると思いますが、氷見ならではのものを伸ばし、大切にしていかなければならないと思えますし、そういう視点が、これからは大事であると思っております。

制度化したものが現状とマッチしていないこともあると思っておりますので、

そういったことについても、今後研究していきたいと思います。

総務部長

「10削り、3に集中」というお話がありましたが、ワークショップでの意見の中にも、「スクラップアンドビルド」、「事務事業の見直し」というものもありました。必要性の薄れた事業などについては、スクラップすることも必要であると思っております。

市民の意見などを聞きながら、終了してもいい事業、重点的に取り組む事業などの洗い出しに取り組んでいきたいと思います。

会長

いろいろ、専門分野から貴重なご意見をいただきました。ここで協議を終了したいと思います。

今日の議論を踏まえまして、次回の会議では、この懇話会として市へ提出する提言書についての議論を行いたいと思っております。

それでは、閉会にあたりまして、副市長から一言ご挨拶をいただきます。

棚瀬副市長

今日は大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。ただ今は、たくさんのご意見をいただきまして、どれもこれも、大変素晴らしいご意見であったと思っております。いただいた意見につきましては、持ち帰りまして、いいプランに仕上げられるように努めたいと思います。

次回には、いただいたご意見等も踏まえながら、提言についてご審議いただくことになっております。またよろしく願いいたします。本当にありがとうございました。

会長

長時間にわたりまして、熱心にご議論いただきまして、ありがとうございました。次回は、手元に案内文書を出しておりますとおり、8月25日、月曜日の4時から予定しておりますので、よろしく願いいたします。

本日はこれを持ちまして、閉会といたします。みなさま、どうもごくろうさまでした。